

「いのちを見つめる日」を迎えるにあたって

平成16年6月1日、本校において、大変痛ましい事件が起きました。お亡くなりになられた御手洗怜美さんのご冥福を改めてお祈り申し上げますとともに、ご家族の皆様、関係の皆様方に謹んで哀悼の意を表します。

佐世保市では事件以降、6月1日を「いのちを見つめる日」、そして6月を「いのちを見つめる強調月間」と定め、「心の教育の更なる充実」「コミュニケーション能力の向上」「子どもの居場所づくり」「学校と家庭、関係機関との連携・協働を図る」の4つを柱として、「いのちを大切にする教育」を推進してまいりました。本校におきましても、学校教育目標「秩序と活気ある子どもの育成 ～落ち着いた心と態度で生き生きと活動する子ども～」の具現化に向け、保護者及び地域の皆様並びに関係機関の皆様と連携しながら、「自他のいのちを大切にし、思いやりのある子どもを育てる」という確固たる信念のもと、職員一丸となって心の教育の充実に努めてきたところです。その一つ一つの取組が実を結び、本校の子どもたちは今、一人一人が個性を輝かせながら日々成長しているところです。

しかしながら、情報化の進展やSNSの普及など、子どもたちを取り巻く環境は日々目まぐるしく変化しており、全国的に見ても、いじめやSNSによるトラブルなどが後を絶ちません。「いのちを大切にする教育」は、今もそしてこれからも、益々その必要性が高まっています。

19回目の「いのちを見つめる日」を迎えるにあたりまして、事件から得た教訓をしっかりと引き継ぐとともに、二度とこのような悲劇を繰り返してはならないという決意を新たにしているところです。

今後も保護者及び地域の皆様並びに関係機関の皆様との連携をより一層図りながら、「いのちを見つめる強調月間」の取組に真摯に向き合うとともに、子どもたちが、いのちの大切さについてしっかりと考え、自分自身の生き方を見つめ直しながら一步一步成長できるよう、年間をとおしていのちの教育を進めてまいります。

子どもたち一人一人の笑顔が輝く学校にするために、全職員が一致団結して教育活動に取り組むことをお誓い申し上げ、「いのちを見つめる日」を迎えるにあたっての本校校長としての所感といたします。

令和5年6月1日

佐世保市立大久保小学校
校長 黒田 優一